

ご挨拶

この度は、多方面からのご参加を頂き、厚く御礼申し上げます。

本メッセは震災復興にかける地元の熱い思いをベースに、関西圏を始め国内外との強力なシナジーを生み出しながら、西日本最大級の総合展にまで発展してまいりました。

本年もコロナ禍のなか、昨年を上回る420ブースの出展となりました。

このような底力を発揮する本メッセは、地元産業界にとって不可欠なものとなり、期待の大きさに身の引き締まる思いであります。

一方、世界は激しく流動・変化しており、特に新型コロナや貿易摩擦などによるインパクトは甚大です。その中で、産業界がさらなる成長をしていくためには、我々自身が大局的な観点からの戦略のもと、新しい変革に挑戦していかなければなりません。

世界では新型コロナに対処するため、1300兆円もの財政出動が計画・実行されています。その目的の一つは、コロナ後の経済再生を見据えた脱炭素（カーボンニュートラル）やデジタルトランスフォーメーションなどへの投資であり、イノベーションの視点からいえば極めて大きなチャンスが生まれています。

我々は、そのような社会の大きな動きを背景に、ポストコロナの時代のさらなる発展をつかみ取る気概を共有することが重要で、今回のメッセの大事な意義と考えております。

本メッセでは毎年特別テーマを設定して、その年の特色を出していますが、今年はこの地域が世界に先駆けて展開する水素社会などに象徴される、脱炭素に向けた「環境・エネルギー」がテーマとなっており、まさに「時は今」のテーマと考えております。

特別講演には我が国の環境・エネルギー政策や研究の第一人者であります地球環境産業技術研究機構（RITE）の山地理事長をお願いしており、今後の脱炭素に向けたエネルギーの大転換について発信していただきます。

また、地元の産官学金の皆様の力強い活動は、「ひょうご環境ビジネス展」、「みなと元気メッセ」、「こうべしんきんビジネスメッセ」、「たんぎん産業メッセ」、「にしん輝きメッセ」としてご出展頂いております。是非、例年にもまさる産官学金の活力を感じて頂ければと思います。

主催者といたしましては、今回のメッセにご参加の皆様が、少しでも将来への飛躍の機会をつかんで頂けることを願っております。

最後に、コロナ禍のなか積極的にご参加頂きました出展者の皆様、講師の先生方、また、感染防止対策など議論を重ねながら準備頂きました関係者の皆様など、多くの方々に支えられ、この度も開催できますこと、主催者を代表して心よりお礼を申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。

国際フロンティア産業メッセ実行委員会
会長 牧村 実